

学校教育

現状と課題について

- ・ タバコは医学的に命に関わる物質であることが明らか。「脅威」、「弱み」に入れ、「強み」にタバコフリーキャラバンの取組を入れるべき。
- ・ 老いから子どもたちが学ぶ命は大きい。子どもたちから高齢者へのインタビューを取り込めるのではないか。
- ・ 規範を学ぶとき、逸脱も含めて学ぶ必要がある。
- ・ 教育全体がマニュアル化している。トライ＆エラーの学びがないといけない。
- ・ 親の教育について、踏み込んだ関わりをサポートすることが必要である。
- ・ 人間観や世界観を培う教育を押さえておく必要がある

政策の基本方向について

- ・ 世界中で効果の上がっている「タバコ対策」をキーワードとして入れるべき。
- ・ 学校教育は小学校以上と受け取られるが、本当に基本的なところは幼児教育である。
- ・ 命をいただいている感謝の気持ちを含め、食育指導員の活動を大きくして頂きたい。
- ・ 京の酒どころの話をカリキュラムに組み込み、健全な育成や食育に用いる。
- ・ 保幼小中の連携は、高校まで含んで「生きる力」というキーワードと子どもを育むビジョンを市民と共有しながら進めるべき。
- ・ 「豊かな心」、「規範意識の育成」に、公德心や京都を愛する地域愛、環境保全の意識の育成が必要である。
- ・ 世界の思春期教育は、本人たちが中心である。本人たちが中心に取り組む教育が大事と基本方向に入れてはどうか。
- ・ 子どもの「生きる力」につながる、考える力・臨機応変さに対応できる力をつける。

市民と行政の役割分担と共汗について

- ・ 「確かな学力」は学校に任せ、「豊かな心」・「健やかな体」を伸ばすのは親の役割ではないか。教育において、家庭の役割を明記することは有効ではないか。
- ・ 保護者には、教育は行政サービスの一環でやってもらうものという感覚が強い。保護者も子どもたちを育める環境づくりなど市民として一緒に取り組む必要がある。

10年後に目指すべき姿について

- ・ 幼保一元化を言っているうちは難しい。子育て一元化、保育一元化という言葉になるくらい、10年後に目指す姿として検討していきたい。

両分野共通

- ・ 「子どもを共に育む京都市民憲章」の1番に「かけがえのない命を守ります。」と「命」が押さえられている。基本方向に「命」を入れる。
- ・ 「つながる力」ということで、人とつながる、他者と連帯する、社会と接点を持つ、みんなとつながっていくということは教育の力として大事にされなければならない。
- ・ クリエイティブな人材、共感力を持った人材を育てることを明確に打ち出す。

- ・ 地域活動をしている役員の高齢化に対して、地域活動へのリクルートを意識しつつ、PTAと地域活動の連携を開発する必要がある。

生涯学習

- ・ 高齢者の生き甲斐について、学校ふれあいサロンを「強み」に入れる。
- ・ 「子どもを共に育む京都市民憲章」を周知すること。
- ・ ゲームによるバーチャルな世界の中で子どもたちが遊んでいる。脳への影響は大きい。
- ・ 子どもたち自身が、ゲームや携帯電話から学び取っているものを否定していいのか。子どもの目線、子どもたちが主人公ということを見落としてはならない。

- ・ 「大人の健康と学習」を入れる。参画型の学習で、NPOで人材育成を行う。
- ・ 知的障害者を含む障害者の生涯学習を押さえておく。
- ・ 世代間交流を進めていくという点を押さえておく。
- ・ 夜間学校は大きなポイント。社会全体で考える必要がある。
- ・ 民間、任意団体、町内会などの生涯学習の取組に対する支援体制を考える必要がある。
- ・ 自治会組織やPTAなどの活動に取り組む人が限られている。役割分担してみんな何かを担える仕組みができれば、子どもの教育環境もまちも良くなる。
- ・ 生涯学習のコンシェルジュ的な案内所（Web上も含む。）があればいい。
- ・ 少年補導や体振の委員など、予算も含めて自由に取り組めれば盛り上がると思う。

- ・ このような委員会的なものを保持し、横の連携をうまくとって問題を練られるようにすべき。